

ACT!

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2022年 6月号



© Solen Mourlon/MSF

国内避難民が身を寄せるコンゴ民主共和国のカンベ・キャンプ。無邪気な大縄跳びをする子どもたちの足元に靴はない。

特集

史上最悪、8240万人。 難民・避難民の人びとに医療を

私たちの全ての活動は、40万人以上の支援者さまと共に

2021年度

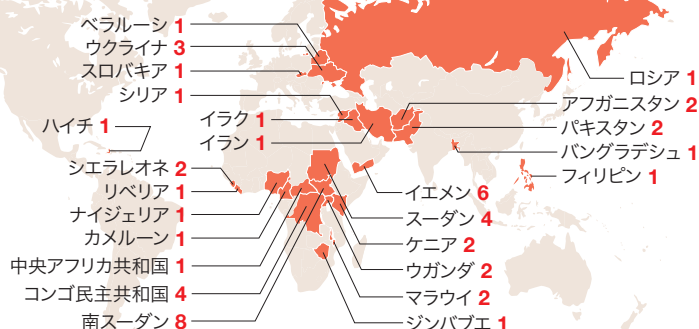
国境なき医師団日本 財務・活動ハイライト

2022年度

国境なき医師団 活動予算

日本からのスタッフ派遣状況

25カ国51人(2022年4月28日現在)



隣国のヨルダンでも67万人^{※4}のシリア難民を受け入れており、MSFは、2013年から医療援助を開始。国境付近におけるシリア難民の外傷治療を皮切りに、長引く避難生活を支える心のケアや慢性疾患の治療など、変化する医療ニーズと向き合いながら、人びとに寄り添い続けました。



シリア難民としてヨルダンで暮らすガザレさん。夫の仕事や、5人の子どもの教育のことなど心配は尽きない。

MSFにとって過去最大規模と
なっているシリア人道危機への
対応。アラブの春の流れを受け20
11年に始まった内戦は、他国の介入
やイスラム国の台頭により泥沼化。10
年以上が経過したいまも、人口の半数
を超える1300万人以上^{※3}が戦火
や迫害を逃れ、難民・国内避難民と
なる非常事態が続いています。

シリア危機から10年以上 周辺国にも及ぶ影響

ヨルダン(シリア難民援助)



© Alexis Huguet/MSF

コンゴ民主共和国のロー・キャンプで洗濯をする国内避難民の人びと。水の確保一つとっても困難を極める。

長期化する紛争の中で 繰り返される避難

コンゴ民主共和国(国内避難民援助)

豊かな天然資源と、200以上
にも及ぶ部族の存在を背景に、
国内各地で複数の武力衝突が起きて
いるコンゴ民主共和国。20年以上に
わたる内戦による国内避難民の数は
約550万人^{※2}にも上ります。

特に2017年以降、部族間紛争
が激化した北東部のイトゥリ州では
人びとは安全な場所を求めてたびた
び移動を強いられるなど、過酷な避
難生活を続けています。「住む場所を
追われるのはこれで2度目です。私
も3人の子どもも、もう運を天に任
せる以外ありません」。虐殺から逃れ、
命からがらブルクワ・エタ保健区域
の国内避難民キャンプ、ロー・キャ
ンプに辿り着いたスザンヌさんは焦
悴しきった表情で話します。

水、食べ物、医療…… 全てを奪われる人びと

MSFはイトゥリ州の4つの保健

難民認定を受けても 困難を極める暮らし

たとえ命懸けで隣国に逃れても、
避難先での生活は安泰とはい
えません。ヨルダンをはじめ周辺国に
身を寄せるシリア難民の7割以上^{※5}
は国際貧困ライン^{※6}以下の生活をし
ているとされ、加えて新型コロナウイルス
感染症の流行も日々の暮らしに
暗い影を落としています。MSFのア
ンマンの病院で足のけがの治療を続
けるガザレさんはこう訴えます。

「故郷のアレppoを離
れ、ヨルダンに来て8
年がたちます。難民認
定を受け、やっと土産
物の作り方を指導する
職を得たものの、コロ
ナ禍では、それもまま
なりません。靴職人の
夫の仕事にも影響が出
ていて、家賃の支払い
にさえ苦労しています。
5人の子どもは、いま
は公立学校に通ってい
ますが、このままいく
とどうなってしまうの
か、本当に不安です」



【約3分半の動画でわかる！】
2013～2021 ヨルダンでの援助活動

スマートフォンから

※3 UNHCRの統計 ※4 UNHCR(2020年1月) ※5 世界銀行とUNHCRによる共同調査(2020年12月)
※6 世界銀行が設定している貧困の指標で、1日1.90ドル未満で暮らすこと。

柔軟な対応で、命を守る！

MSFの難民・国内避難民援助とは？

紛争や自然災害で家を追われた人びとは、着の身着のままで避難している場合がほとんど。私たちは避難先のキャンプではもちろん、避難の途上でも援助します。

診療

一般診療のほか、産科や予防接種、不衛生な環境によって引き起こされる感染症への対応、慢性疾患の治療など幅広い医療を提供しています。



© MSF

長びく紛争や避難生活の影響で、栄養失調になる子どもも少なくない。

物資の配布

石けんや歯ブラシといった衛生用品をはじめ、寝具や調理道具など当面の生活に必要なものを配布しています。

水と衛生の支援

医療援助はMSFの使命ですが、水もまた命に深く関わる問題です。MSFは手洗い場やトイレの設置も行います。



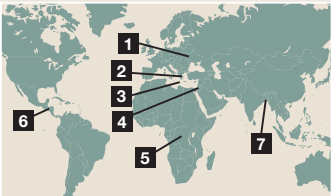
© Alexis Huguet/MSF

国内避難民キャンプにタンクを運び込み、水とトイレの支援を行うMSFスタッフ。

心のケア

難民・国内避難民となった人の多くは、暴力によるトラウマや、避難生活からくる不安を抱えています。MSFは専門的なケアで患者さんに対応しています。

世界各地での活動例



1 **ウクライナと周辺国**：ウクライナ国内と隣国のモルドバなどで、避難をする人びとに医療と物資を緊急支援。

最新の情報はこちらから
www.msf.or.jp/news/special/ukraine-crisis/index.html

スマートフォンから▶



2 **ギリシャ**：中東から欧州へ向かう途中で足止めされ、不当に拘留されている人びとに医療を提供。

3 **地中海**：アフリカや中東から紛争や貧困を逃れ、簡素な船で欧州へ渡る遭難者を捜索・救助。

4 **シリアと周辺国** (上参照)

5 **コンゴ民主共和国** (右ページ参照)

6 **中米**：危険な故郷から逃れ、周辺国や米国を目指す人びとに、移動の途上での医療援助を実施。

7 **バングラデシュ**：迫害によってミャンマーから逃れてきたロヒンギャ難民に医療を提供。

イベントのご案内

エンドレスジャーニー パーチャル・ウォーク
終わらせたい、強いられたい旅路
——ロヒンギャ難民に想いを寄せて、一緒に歩こう
7月2日(土)まで開催中

政府からの弾圧を受けて国を離れ、難民となったロヒンギャの人びと。ミャンマーからバングラデシュまでの過酷な避難の道のりに想いを寄せる、パーチャル・ウォークです。途中からでもご参加いただけます。

詳細とお申し込みはこちら
から
www.msf.or.jp/event/



スマートフォンから▲

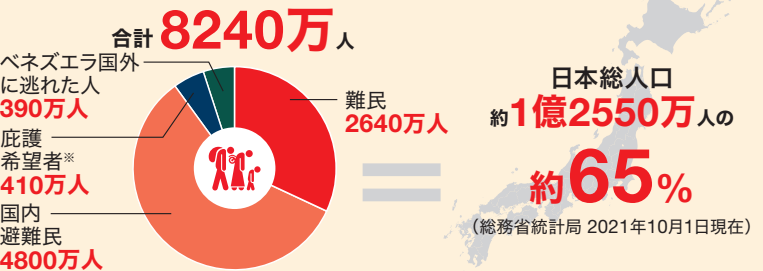
特集

史上最悪、8240万人。^{※1} 難民・避難民の人びとに医療を

今年2月以降、ウクライナから避難を強いられる人びとが後を絶ちませんが、実はこのように故郷を離れざるを得ない難民・国内避難民の人びとは、世界中で増え続けています。国境なき医師団(MSF)の活動をご報告します。

この10年間で約2倍に急増。世界中で、避難を強いられる人びとの現状。

その数は、日本の総人口の約65%に当たります。



※庇護(ひご)希望者：他国に避難し、庇護申請をしている人びと。審査の間は受け入れ国で暮らせるが、審査が長引く場合も多く不安にさらされる。

難民・国内避難民が増え続ける大きな理由として挙げられるのが、紛争や迫害です。また近年の気候変動や自然災害の影響により住んでいた土地を離れざるを得ない人びとも多くいます。

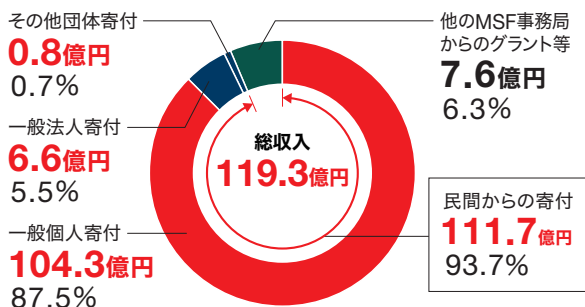
1 **難民とは？** 国境を越えて、周辺国をはじめとする他国に避難した人を指します。難民は国際条約で守られていますが、文化や言葉の違いもあり、受け入れ国での生活は、決して楽ではないのが実状です。

2 **国内避難民とは？** 体力や経済面などの理由で、国境を越えずに国内の別の地区に避難している人を指します。キャンプのほか、都市部の貧困地区に身を寄せていることも多く、支援も十分とはいえません。

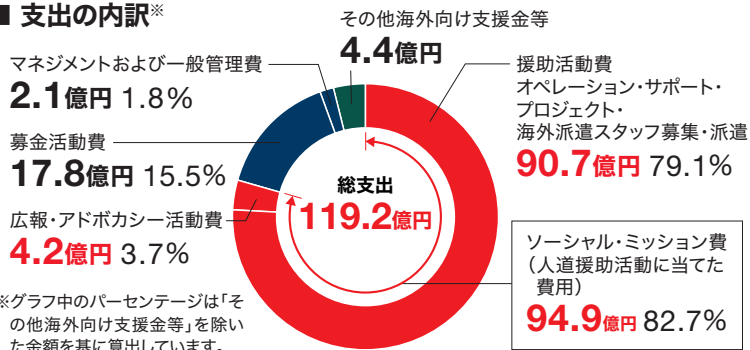
2021年度 国境なき医師団日本 財務・活動ハイライト

いつもご支援をありがとうございます。2021年度の国境なき医師団(MSF)日本の財務状況・活動報告の概略をご紹介します。なお詳細はウェブサイトおよび10月号でご報告する予定です。

■ 収入の内訳



■ 支出の内訳※



■ ご支援くださった日本の皆さま

40.2万人

■ 日本からのスタッフ派遣数

90人 延べ 106回

財務報告の詳細はウェブサイトから！

『年次活動報告書』を公式サイトにて6月中旬に公開予定です。ぜひご覧ください。
www.msf.or.jp/publication/annualreport/

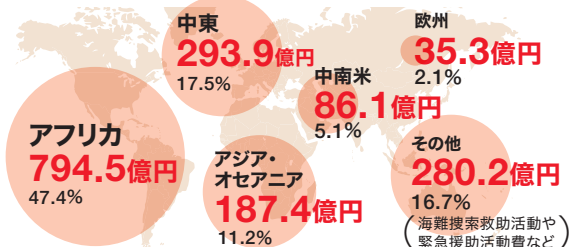


スマートフォンから▲

2022年度 国境なき医師団 活動予算

2022年度、MSFは70以上の国と地域で医療・人道援助活動を予定しています。

■ 活動予算 総計1677.5億円



(注) 個別数値は四捨五入して表記しているため、内訳の合計が総数に合わないことがあります。

■ 主な活動予定国

- **イエメン** 129.8億円
これまでの活動：紛争による負傷者治療、コレラ、はしか、栄養失調など
- **コンゴ民主共和国** 106.4億円
これまでの活動：暴力被害者支援、国内避難民支援、はしか、エボラウイルス病(エボラ出血熱)など
- **南スーダン** 104億円
これまでの活動：紛争による負傷者治療、難民・国内避難民支援、母子保健、洪水緊急援助など



MSFの支援する病院で生まれた双子の娘を抱く父親(イエメン)

※2022年3月2日時点の予算です。 ※1ユーロ=132.1円で換算。

ニュースレター ACT! 2022年6月号

発行元
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報 に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料 平日9:00~18:00 / 土日祝日、年末年始休業

※ご住所に変更がある場合は、上記までご連絡ください。
※新型コロナウイルス感染症対策により、場合によっては寄付によるお手続きや領収書の発行といった、事務対応に遅延が発生する可能性があります。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。

遺贈 に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430 担当者直通 平日10:00~17:00 / 担当：荻野、今尾

国境なき医師団は、世界約90の国と地域(2020年実績)で活動する、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争地や自然災害の被災地などで危機に瀕した人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。

今号の『ACT!』の感想をお寄せください

●締め切りは2022年7月29日(金)です。

WEB <https://form.run/@act-2206>

スマートフォンから▶



新役員のご紹介

2022年3月にMSF日本の定例総会が開催され、新理事・監事が決まりました。新会長に、救急医・麻酔科医の中嶋優子が就任しました。

理事

- 会長 中嶋 優子 (救急医/麻酔科医)
- 副会長 久留宮 隆 (外科医)
- 専務理事 高橋 健介 (内科医/疫学専門家)
- 会計役 エリック・ウアネス (元国境なき医師団日本事務局長)
- 理事 齊藤 哲也 (元国境なき医師団日本事務局職員)
- 理事 ジル・デルマス (疫学専門家)
- キム・テヨン (コーディネーター)
- 小杉 郁子 (外科医)
- 空野 すみれ (産婦人科医)
- イサ・カディノン・コナテ (元国境なき医師団オペレーション組織職員)

監事

森川 光世 (コーディネーター/元国境なき医師団日本事務局職員)

「毎月の寄付」をクレジットカードでお支払いの皆さまへ

クレジットカードの更新があった場合は
マイページの「毎月の寄付」の確認/変更よりお手続きください。

www.msf.or.jp/update/

スマートフォンから▶

